

丹鶴叢書

草根集八

093.1

2006

佛教大學圖書館



2005494828





草根集第八

宝徳二年正月朔日試筆



初春いよも老くも更よ七十八あはれ
梅薫袖をいよもいよも梅の花のいよも夫のいよも
神祇あはれいよもあはれいよもあはれいよもあはれ
鴨部之基經冊

かろいよもあはれいよもあはれいよもあはれいよもあはれ
かろいよもあはれいよもあはれいよもあはれいよもあはれ

二日正般扇よあはれいよもあはれいよもあはれいよもあはれ
かろいよもあはれいよもあはれいよもあはれいよもあはれ

晦日回家の月次
もきい〜

庭上松 當坐 幾多きうなまのこゝろに

梅薫風 當坐 ふるまきしづかに

寄海恋 あきくもしづかに

磯 巖 天くもる神なる

二月の右の家の月次

椿葉伴 業子 齡 玉枝を

春 月 乙はつ月の

寄衣恋 月子の信を

十日右三衛佐石橋右衛門佐祐義

寺まき月次

松樹契久 當坐 日向契久

初春霞 なつもつも

變 恋 江をば

暮山鐘 鐘の

旅宿夢 海も

十四日或所の月次

尋山花 あま

春田雨 めま

家々恋 當聖 花 當聖 落 當聖 宗花逢恋 宗花絶恋

十五日大徳大夫の家の方

多年翫梅 関 霞 別悔恋 山寺鐘 十六日三郎女補の家の方

子松

花多春友 江 柳 春田蛙 家雲恋 雲居鶴 十七日刑部大補の家の方

遊花薫 二月餘寒 遇不逢恋 羈旅海

十の妙りきよは修理大夫入道の御歌
よみしるるる

餘寒月 ひかり 枝のほけりて
寄柳 ひかり 花のほけりて
夕出思 ひかり 住るもあはれ
廿日右馬の家の庭は信濃梅

一ふ

春曙雲 ひかり のもよほつて
春忘恋 ひかり 春忘恋 ひかり
春眺望 ひかり 山越ゆる甲

子抄

廿五日東福寺栗棘庵に修理大夫入道

次ふ事喜氣のむかしなる

朝尋花 ひかり さくもつて

夜思花 ひかり せむし

廿二日修理大夫の家の花散る

柳弁春 ひかり かのきみ

月帶霞 ひかり 月のひかり

恋雜物 ひかり 多し

柳似煙 ひかり あらみ

祈逢恋 ひかり 祈逢恋

積雪 雪の積るははらばらけり
 寄鳥恋 鳥の恋ははらばらけり
 寄衣恋 衣の恋ははらばらけり
 山家 山家の恋ははらばらけり
 祝言 神言の恋ははらばらけり
 九月大光明寺の月夜

夕落花 夕落花の恋ははらばらけり
 月帯霞 月帯霞の恋ははらばらけり
 初見恋 初見恋の恋ははらばらけり
 寄雁連雲 寄雁連雲の恋ははらばらけり

苗代蛙声 苗代の蛙声の恋ははらばらけり
 寄閑恋 寄閑恋の恋ははらばらけり
 往事催涙 往事催涙の恋ははらばらけり
 寄月秋教 寄月秋教の恋ははらばらけり
 十日あはれの月夜

春月 春月の恋ははらばらけり
 款冬 款冬の恋ははらばらけり
 渡舟 渡舟の恋ははらばらけり
 落梅浮水 落梅浮水の恋ははらばらけり
 被厭恋 被厭恋の恋ははらばらけり

丹鳥叢書目

首 夏 ぐ終るみるやふいゆるふと夏の日敷斗ふりの衣を
 被忘恨恋 うら敷とむるふあしと志只ふみと浦とくはは
 野宿鐘 ^{旅英} 産をさすものかみ新をみくゆりしよるる鐘とな

四日刑部太輔家のことり

林首夏 白妙もつ成る昔もく海くかぶる夏のわたの色衣
 海郭公 須のうのい村をくくふよと志ほすくくはは
 契侍恋 ^{うく英} 三出る産の杜風音くたのむうもく暑る月新
 更衣 ^{當聖} あくくくたきくすまの衣もも花のくくすつる衣
 寄夕恋 月なくせあてもみかやまついこく名やもしぬく秋の
 古 寺 ^{子松} いのこのあめきたる自に描るる花のくたあお

九日大光明寺の月次

夕 花 新唐くくのも山は夕日暮村のよ清ぬく秋のまつ風
 時 鳥 ^{か本} をよるるみ塚のむもちくくくくははあつる
 旅 泊 ^{か本} なもくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 橋薰風 吹くるもそしよあわぬ白くくくくくくくくくく
 寄芝恋 朝露も神のよもくくくくくくくくくくくくくく
 寄柳恋 思整くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 山館松 寄のくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 十一日常楽寺の月次

水郷夕花 ぐくくくみ塚はくくくくくくくくくくくくくく

雨後郭公 又いふはるのさかきさかき
 依恋祈身 ことなほさかきさかき
 簷草蒲 ぐさ草のさかきさかき
 河夏稜 涼くす枝のさかきさかき
 寄月恋 せむらふくさのさかきさかき
 曉遠情 くらげのさかきさかき
 孤夢易覺 敬業 杉をさかきさかき
 廿七日恩徳院乃月次

三三

尋 急 ささきさかき
 曳草蒲 ぐさ草のさかきさかき
 祈身急 ことなほさかきさかき
 侍空急 ことなほさかきさかき
 旅 泊 今ね月さかき
 秋 業 教 たのもさかき
 五月十六日大樂寺の月次

夏 田 あやふく早苗あさき
 夏 雨 山風のさかきさかき
 夏 旅 杉をさかきさかき

晦日佛地院位敷も美の坊より

夏 山 *あつたけのやま* *あつたけのやま* *あつたけのやま*

夏 衣 *あつたけのころも* *あつたけのころも* *あつたけのころも*

夏 舩 *あつたけのふね* *あつたけのふね* *あつたけのふね*

夕採^{當堅}早苗 *あつたけのあさな* *あつたけのあさな* *あつたけのあさな*

昌蒲露 *あつたけのあしな* *あつたけのあしな* *あつたけのあしな*

寄^り恋 *あつたけのこい* *あつたけのこい* *あつたけのこい*

田里^{ヲ美}行 *あつたけのり* *あつたけのり* *あつたけのり*

六月四日回寺と智院位敷も美の坊より

あつたけのり

子祐

首夏月 *あつたけのつき* *あつたけのつき* *あつたけのつき*

別 恋 *あつたけのこい* *あつたけのこい* *あつたけのこい*

旅 泊 *あつたけのり* *あつたけのり* *あつたけのり*

六日長葺の坊も美の坊より

あつたけのり

盧 橋 *あつたけのり* *あつたけのり* *あつたけのり*

穿火恋 *あつたけのこい* *あつたけのこい* *あつたけのこい*

嶺 雲 *あつたけのり* *あつたけのり* *あつたけのり*

八日刑部大輔の家の坊より

橋 蛭 *あつたけのり* *あつたけのり* *あつたけのり*

海邊松 浪も松屋の風もあまの岸の鳥さかお

十六日 常樂の月次

朝氷室 杉の影も空の影もあまの岸の鳥さかお
松下水 松の影も空の影もあまの岸の鳥さかお
寄月恋 空の影も空の影もあまの岸の鳥さかお
早春雪 空の影も空の影もあまの岸の鳥さかお
遠擣衣 月影も空の影もあまの岸の鳥さかお
寄芦恋 空の影も空の影もあまの岸の鳥さかお
暮山雨 鳥の影も空の影もあまの岸の鳥さかお

十七日 總今の夜月次

子社

夕立暗 おの影も空の影もあまの岸の鳥さかお

沙月涼 月影も空の影もあまの岸の鳥さかお

寄國祝 梓の影も空の影もあまの岸の鳥さかお

曉鶉川 松の影も空の影もあまの岸の鳥さかお

宮閑恋 一軒の影も空の影もあまの岸の鳥さかお

旅泊夢 空の影も空の影もあまの岸の鳥さかお

廿日 忍徳院の月次

嶺樹蟬 松の影も空の影もあまの岸の鳥さかお

湊夕立 湊の影も空の影もあまの岸の鳥さかお

稀回恋 空の影も空の影もあまの岸の鳥さかお

七夕擲 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 七夕恋 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 同日夕 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 七夕風 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 独見月 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 立名恋 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 寄紐恋 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 山家嵐 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 懐旧涙 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 夜釈教 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを

九日大光の月の

早秋露 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 虫声滋 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 寄汚恋 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 遠 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 寄昔恋 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 古寺嵐 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 行路搞 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを
 孤夢易覚 あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを あまのこころを

十二日或の月次

澤 鳴 けみあひにのまをさしとて野のうらをかくれむ
 尋縁恋 縁く一程たのしみ入つるのまのなまらあむかきくも
 夕陽映島 沖つせむ移れあはれもすきくけしあむかきくも
 廿四日智氏社修理大主人道もかきくけしあむかきくも
 二十三日あむかきくけしあむかきくも

山早秋 あけあけはつとての神風を流るれむさよあむかきくも
 河上月 みるみる月影のまをさしとて野のうらをかくれむ
 家歎恋 二つはあむかきく馬のまをさしとて野のうらをかくれむ
 古寺燈 けのまをさしとて野のうらをかくれむ
 八月二日の曉もあむかきくけしあむかきくも

子林

かきくけしあむかきくけしあむかきくも
 九月もあむかきくけしあむかきくも
 かきくけしあむかきくけしあむかきくも
 かきくけしあむかきくけしあむかきくも
 かきくけしあむかきくけしあむかきくも

信一本

初秋 月 林のまをさしとて野のうらをかくれむ
 澤 月 みるみる月影のまをさしとて野のうらをかくれむ
 越き入道 宗因のまをさしとて野のうらをかくれむ
 永き徳のまをさしとて野のうらをかくれむ
 こゝろのまをさしとて野のうらをかくれむ

寄琴函 舟宿書
 寄傀儡函 舟宿書
 田家與 舟宿書
 廿二日大光明寺の月次

初 雁 舟宿書
 海 月 舟宿書
 麓 舟宿書
 荻 舟宿書
 菊 舟宿書
 寄玉函 舟宿書

山家嵐 舟宿書

廿五日妙蓮寺の月次

初秋雨 舟宿書
 都 月 舟宿書
 別不知函 舟宿書
 釋 秋 舟宿書

廿七日刊於大浦家の時八月の月次

閑屋秋夕 舟宿書
 初雁横月 舟宿書
 不叶心函 舟宿書

廿六日三井寺より

初春霞 ちりほのつゆのしらけのしらけ
 梅 三日月より梅の枝のつゆのしらけ
 聞郭公 梅の枝のつゆのしらけ
 終夜月 村のつゆのしらけ
 野秋霜 ちりほのつゆのしらけ
 雪朝眺望^{遠美} ちりほのつゆのしらけ
 祈 恋 ちりほのつゆのしらけ
 障 恋 ちりほのつゆのしらけ
 秋顯恋 ちりほのつゆのしらけ

三子格

家條逢志

ちりほのつゆのしらけ

山

ちりほのつゆのしらけ

溪古橋

ちりほのつゆのしらけ

冬海村

ちりほのつゆのしらけ

曉漁火

ちりほのつゆのしらけ

谷 橋

ちりほのつゆのしらけ

歎

ちりほのつゆのしらけ

秋旅宿

ちりほのつゆのしらけ

風破旅夢

ちりほのつゆのしらけ

心靜延壽

ちりほのつゆのしらけ

十一月十日新波修理方支持種

中本
~~~~~

山時雨 暮のこころをさしつる萩の松風

窓歎 泣きよめるあかぬ乱るる舟のちり

船路遠 月と流るる浦の船のこぼるる

十一日大塚左衛門家

夕木枯 さゆの日の影のたふさぐ文意

恨絶 暁のあかりをさしつる萩の松風

夜旅泊 舟のこころをさしつる萩の松風

去七日右衛門家

中本

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

霞春衣 古のまのこころをさしつる萩の松風

丹鳥長書



旅行鐘 ど二本 江枯芦 ど二本 不逢恋 ど二本 古寺鐘 ど二本

十七日上総今家の月次

寒夜十鳥 月さゆ 雪朝行人 馬不逢恋 路落葉 奇山恋

手札

古渡雲 廿日修理大夫入道家

一本多し

寒松嵐 駅路雪 近 雲障遠望 廿一日恩徳院の月次

冬曉山 遠島雪

丹鶴書

互思恋 いひあひを思ふ 恨 うらみ

寺初冬 堂聖 秋のこのはち 一本

寺辺聞鐘 一本 樵夫婦

時雨廻山 一本 水鳥遊藻

毎夜待恋 一本 薄暮裁風 一本

廿二日右馬伏家

廿四日右馬伏家の月次再興

若草 一本 花似雲

故郷月 一本 忍

廿五日常樂寺の月次再興

寒夜十鳥 一本 風拂松雪

暗後遠望 一本 初冬

冬 一本



川 槁 當坐 えやいさのさかののさかしの海あまのしづみ

川 網代 當坐 あらゆるなすたる矢のむすしづみ川はさかづき

立 名恋 一本 さしあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

山 家 一本 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

八日修理大夫も月夜あふささづきいさかづきあふささづき

曉 千鳥 一本後 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

竹 契 齡 一本前 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

早 梅 白 一本前 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

水 鳥 當坐 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

契 恋 一本 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

子松

樵 夫 一本 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

九日大光明寺の月次

寒 松 一本 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

條 上 霰 一本 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

久 恋 當坐 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

濱 春 月 當坐 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

擣 衣 一本 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

寄 川 恋 一本 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

山 家 一本 ささづきあふささづきいさかづきあふささづきのささづき

十日修理大夫も月夜あふささづきいさかづきあふささづき

中納言

狩場暮 しんば  
 檜原雪 ひの  
 槁行客 かう  
 雉 けい  
 深雪 ふか  
 古寺竹 こ  
 神樂 かみ  
 歳暮 とし

十二日なすまたの月次再興

子格

奮 奮  
 寒草霜 かん  
 簷早梅 えん  
 難忘 なん  
 銭別向夜 せん  
 山中滝音 さん  
 十二月事樂

暮天残雁 ぼ  
 寄残月 き  
 海上曉雲 かい



家逢恋

江美  
よみかゝるはの海の波の音の目もあはれ沖し舟入

江舟

水鏡る古江の移の丸舟りかかゝるは舟り

湖上霞

坊之日 円寺南院玉泉坊より  
下く霞の風のみこもるは霧むす

濱畔千鳥

なまるとは鳥の石のたもとに

祈経年画

祈経の我の心も静かぬ社も静かぬ

河眺望

みまの河の流のたのしみ

晦日

將軍の心も静かぬ社も静かぬ

春の心も静かぬ社も静かぬ

